

Minato-branch

No.10

【支部長】(株)ケイ・エム・アイ・ネットワーク

増田 光 仁

【副支部長】(株)プランニングマーケット

福田 久 美 子

【副支部長】(株)東京技術協会

鈴木 将 人

【副支部長】(株)創土社

宮地 本 治

【副支部長】(株)キンコー

及川 聡

【支部監査】(株)アイワエンタープライズ

八 田 幸

私達は、昨年の忘年会の際に以下の呼びかけをしました。

「3.11復旧・復興未だならず」

その“風化”が囁かれています。今一度被災地に思いを馳せ、昨年“共有した危機”の薄れと災害復興資金が全国的に拡散している問題を考えて見たいと思います。

今被災者は“ガンバッペ”と復興に立ち向かっています。私達はその良きサポーターになればと考えています。

と言いながらも、私達は今「南海トラフ大地震、東京湾北部地震と富士山大噴火」と言う

“広域災害”に対処しなければなりません。(略)

予想されている“広域災害”に対して私達は今“ジャグラー(いち)工場”のスローガンの下に

“広域事業連合”化構想の具体化を模索しています。(略)

「12.6 伝左衛門集合!」そして、来年も“ガンバッペ”!

また、昨年9月1日防災の日に、東京グラフィッサーサービス工業会と港区産業団体連合会は首都直下型震災等の災害対応としてそれぞれ「BCP宣言」を採択しました。

具体化に向けて事業継続計画の策定に着手される事を願っております。

本年4月1日から東京都帰宅困難者対策条例が施行されます。

事業者は事業の継続に加え事業関係者(ステークホルダー)の生命身体の安全に責任が問われようとしています。

改めて災害対応について急ぎ事業継続計画(BCP)の作成を急ぐと共に、

同じく4月より東京グラフィックスの法人格の変更=公益社団法人として新たな地域貢献事業に取組みたいと考えています。

支部長 業界 日誌

◆今号は、No86号で掲載出来なかった産団連納涼会報告から初めます。

また、この間産団連事業との事業共催を進めて来ましたので、産団連NEWSから区民まつりや新年会記事を転載しました。

◆忘年会は今年も役員各位の協力を頂き無事終了出来ました。又、今年度のお土産は時宜に合わせて防災関連グッズを出席者全員にお渡ししました。又、飛び入りで海江田衆議院議員(P4下段左)の参加とご挨拶を頂きました。

◆本支部報と前後して前年度から継続しています自主研究事業の「BCP策定事業報告書」がお手元に届くかと思えます。本事業に

は港支部会員に多大な協力を頂いております。同誌緒言を転載しました。合わせお目通し下さい。

◆本部と併せ50周年を迎え、港支部は記念グッズを製作し関係者にお配りをしました。活字離れや読書習慣の薄れが囁かれています。本記念ブックカバーを大いに活用を願う次第です。

◆本号は産団連記事を多く転載しています。特にボウリング大会の記事にご注目下さい。この処「東グラさんは、景品〇〇!」だと陰口を囁かれています。是非来年もこの調子で〇〇の前に「大」を付けて貰いたいと思えます。関係者の奮闘を期待します。

◆本年度は新社長が誕生しました。(株)カワチヤプリントの国沢進氏は、昨年11月に次男の良祐氏と社長交代されました。忘年会には新社長の良祐氏に出席を頂きました(P4写真中段中央)。今後の活躍を期待したいと思います。

◆前項が廢としますと、期末3月に入り副支部長の鈴木さんのご尊父の訃報が入りました。ご尊父のご冥福を祈りつつ鈴木さんの3月のお忙しさを思い気を煩わしておりました。

◆来年度は懸案の支部若返りを図りたいと思います。新社長の登場もありました。支部行事に多くの会員のご参加をお願いします。

◎産団連主催納涼会〈24年7月20日=産団連NEWSより〉

納涼会

当連合会主催の納涼会が7月20日(金)東京プリンスホテルのガーデンアイランドで開催されました。

当日は、始まる直前に雨が降り始め、2団体が雨の影響で少し離れた場所になりましたが、各団体の事業所から132名の方々にご参会いただきました。

午後6時、竹中 武史 高輪工業会会長の司会により開催されました。

参加加盟団体会長、区職員の紹介、坂東会長の挨拶、港区長の挨拶をいただき、増田 光仁 東京グラフィックスサービス工業会港支部長の乾杯によりスタートしました。

今年も抽選会を行い55名の方に抽選で区内商品券をさしあげました。

午後8時ごろ、小島 猛 東京都印刷工業組合 港支部常任相談役の中締めで無事散会となりました。

なお、衆議院議員 海江田 万里氏、都議会議員 大塚 たかあき氏、きたしろ 勝彦氏もご参会いただきました。



◎第31回みなと区民まつり〈24年9月7日=産団連NEWSより〉



7日は天気良かったのですが、前日の雨で道路がぬれていて歩くのに苦労したお客さんもいました。

昨年行われなかったパレードも行い、人手も多かったのですが、バザーの品物が少なかったので早く完売しました。

品物を提供してくださいました会員、団体・企業の皆様、販売に従事していただきました皆様に紙面をお借りしまして御礼申し上げます。



◎産団連港区共済ボウリング大会(24年9月28日=産団連NEWSより)

港区産業団体連合会・港区共催 ボウリング大会

港区産業団体連合会と港区の共催によるボウリング大会が、9月28日(金)に田町ハイレーンで開催されました。

当日は加盟団体所属の事業所から23チームが参加しました。

5分間フリーの練習の後、港区産業振興課産業振興係長の司会により開会となり、坂東 和男当連合会会長の挨拶、武井 雅昭港区長の挨拶があり、ルール説明のあと、坂東会長、武井港区長の始球式が行われました。

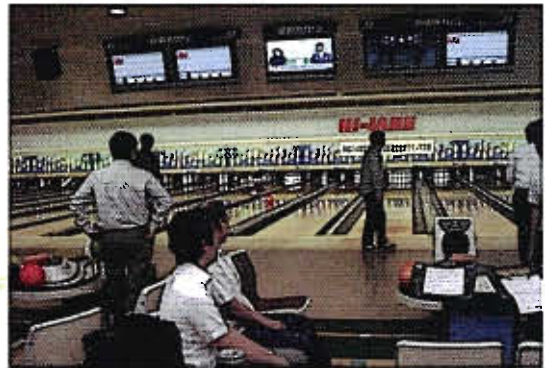
ゲームは昨年同様2ゲームトータル【ハンデキャップ】方式により行われました。

ストライクやスベアをとると歓声があがり和気あいあいとした中、1時間にわたり繰り広げられ、興奮のうちにゲームが終了しました。

会場を移しての表彰式が始まり、東京グラフィックスサービス工業会港支部長の増田さんの司会により懇親会が行われ、その後入賞式の表彰が行われ賞品やトロフィーを授与されました。そのたびに、受賞者の笑顔と歓声、どよめきに会場内はつまれました。

昨年は、港区管工会在賞をほぼ独占しましたが、今年はグラフィックスさんの活躍がめだちました。

なお受賞者は以下のとおりです。



個人の部

順位	総合得点	参加者	団体	チーム名
優勝	373点	萩原 健司	高輪工業会	萩原バルブ工業(株)
準優勝	351点	大平 文博	グラフィックス	(株)デジタルブック
第3位	337点	井手 孝典	港区管工会	(株)日設



団体の部

順位	総合得点	団体	チーム名	参加者
優勝	929点	グラフィックス	(株)デジタルブック	◎佐藤 力 ◎大平 文博 ◎関根 佳和
準優勝	925点	グラフィックス	(株)プランニングマーケット	◎福田 久美子 ◎田辺 明子 ◎阿部 和歌子
第3位	924点	高輪工業会	萩原バルブ工業(株)	◎萩原 健司 ◎小澤 毅信 ◎大元 明
第4位	849点	港区管工会	(株)日設	◎井手 孝典 ◎小谷 寛 ◎金澤 秀明
第5位	840点	高輪工業会	両角ジャム(株)	◎両角 祐治 ◎金子 大悟 ◎寺野 亮
第7位	812点	高輪工業会	曾根地銅店	◎曾根 努 ◎勝山 貴之 ◎栗原 昭夫
第10位	767点	港区管工会	(株)テクノ葎和	◎矢部 鷹 ◎志村 圭二 ◎神田 剛志
第15位	688点	グラフィックス	(株)デジタルブック	◎阿部 誠司 ◎渡辺 公則 ◎渡辺 崇
第20位	646点	港区管工会	(株)朝日芸社	◎河野 和浩 ◎本庄 正明 ◎大場 昌宏
ブービー	626点	印刷組合港支部	(株)賢工製版	◎廣島 隆之 ◎佐藤 治 ◎田中 順

◎ 支部忘年会(於 伝左衛門=24年 12月6日)

★本部より菅野副会長とジャグラ会員増強部会の田中氏をお迎えしました。また、産団連より事務局の竹内氏(中段左から2)と本年度BCP策定事業に協力を頂いたキヤノンS&Sの藤本氏(中段右端)にもご参加頂きました。



◎ 東京都製本工業組合港支部新年会(産団連NEWSより)

★例年ご案内を頂き出席してきました。出席者全員の記念撮影をご覧下さい。中青老のバランスの良い元気な皆様でした。

東京都製本工業組合港支部

港支部の新年会が1月9日(水)に六日会と合同で芝浦の「牡丹」で、盛大に行われました。

ご来賓を初め関連業者・支部員・六日会員の方々等、総勢38名が出席して楽しいひとときを過ごしました。

十字支部長の挨拶の後、ご来賓の祝辞を頂き、賞輪相談役の乾杯の音頭で宴会が始まりました。

例年通り業者さんから挨拶を頂き、その後、恒例のビンゴゲームを行い、今回は最後まで一等が残り大変盛り上がりました。お客様のほとんどの方が、景品をお持ち帰り頂くことが出来ました。また、カラオケで歌いまくり盛り上がりました。

中締めは、池田幸弘相談役の音頭で、今年一年間の商売

繁盛を祈念してお開きとなりました。
皆様ありがとうございました。



平成25年東京都製本工業組合港支部新年会

◎2013年東グラ新春賀詞交歓会(25年1月17日)

東京グラフィックス港支部新年会

港支部新年会は、例年の通り、東京グラフィックス10支部合同の「新春賀詞交歓会」として1月17日(木)目白・椿山荘にて行われました。

当日は、会員並びに賛助会員等業界関係者約250名余が参加して行われました。特に今年は東京グラフィックスが、4月1日より従来の社団法人から「公益社団法人」への移行に伴う、記念する賀詞交換会として行われました。

この法人格の移行については、ここ数年「公益社団法人」取得に向けて意識的に取組まれて来た事業でもあり、4月以降は新法人格に叶う新規事業に取り組む事になります。

今後業界を挙げての社会貢献事業に取り組むことになりま

すが、首都東京で事業を展開する私達中小事業者の団体として、地域に密着した地域貢献事業の展開を図っていかと考えています。

特に私達は、産団連と同様に昨年9月1日に業界としては先進的となる「BCP宣言」を採択し、同12月に宣言を受けた「災害対策要綱」を引き続き決定しました。首都東京直下型大震災等の災害に向けて、住民とともに業界としてその責任を主体的に担おうと考えています。

今後私達は、公益社団法人東京グラフィックサービス工業会の港支部として、産団連とともに地域貢献事業を推進していきたいと考えております。



◎産団連新春賀詞交歓会(25年1月23日産団連NEWSより)

新 年 賀 詞 交 歓 会

交歓会は、竹中 武史(高輪工業会会長)の司会により始まりました。

坂東 和男港区産業団体連合会会長の挨拶、武井 雅昭港区長の来賓祝辞、菅野 弘一港区議会議長、当選されて間もない山田 美樹衆議院議員もご参加いただきました。

東京都議会議員では、きたしろ 勝彦氏、大塚 たかあき氏に来賓祝辞を述べていただいた後、山内 啓三郎港南振興会会長の乾杯の音頭で懇親会と移りました。

懇親会では、他の関係団体の来賓の方々にご挨拶をいただきました。

また、民主党代表になられてお忙しい中、海江田 万里衆議院議員がお見えになり、中小企業には厳しい状況の中、心強い激励のご挨拶をいただきました。

午後7時30分頃、増田 光仁(東京グラフィックサービス工業会港支部長)の中締めにより散会となりました。



産団連BCP宣言

港区産業団体連合会
地域防災強化事業推進委員会

2011.3.11東日本大震災によって、私達東京で営業・生産活動をおこなう中で地震・風水害等の緊急災害時における事業継承(BCP)が、重要な課題であることを改めて認識しました。

また、懸念されている首都直下型大震災も、この間、より具体的にその対応が急がれることとなっています。私達港区産業団体連合会会員は、首都東京を生業地とする事業団体として地域貢献(CSR)と災害時に於ける有効なステークホルダーたるべく、ここに港区産業団体連合会としてのBCPを策定し、共助・相互扶助の精神を発揮し、会員企業に対する啓発と緊急事態への対応策を提示します。

記

1. 災害時に会員企業の被災状況あるいは復旧状況を把握します。
具体的には所属支部等を通じ本部事務局への情報集中を行います。
また、早急に港区産業団体連合会のネットワークを更新し「災害掲示板」等を作ります。理事会が緊急対策本部を構成し、本部長には会長が当たります。
事務局が対策本部となり各団体よりの情報収集、各種連絡を行います。
2. 事業所・工場の被害、従業員の安否、機器の損傷等、各種救済を求める内容を把握します。
3. 生産続行の可否、諸資材の確保、メーカー・ディーラーとの連携、代替生産(応援要員の派遣等)のネットワーク、対顧客へ必要なサービスの対応を把握します。
4. 事前準備として、耐震対策(PC、サーバ、各種機器類の固定)、消火設備、社内外緊急連絡網の整備、データ類の遠隔地へのバックアップ等のサポートをします。
5. 平時にあっても業界内での作業交流・協力会社とのネットワーク確認、機資材の修繕等の確保の方法を検討します。
6. 従業員の安全確保のために、非常食・水、ヘルメット等の備蓄、社外避難場所の確認、帰宅ルート等の確認を行ないます。さらに「防災隣組」の考えのもと地域内事業者として地域組織(町内会・自治会)との連携強化と帰宅困難、被災者への物的支援等を通じ「地域防災力」の強化に努めます。
7. 関連行政、自治体、他の関連団体との事前協議を下に事後対応に当たります。
8. 会員企業におけるBCP策定を支援します。

“見えないリスクの上に都市を築いてきた私達” ——災害は忘れた時に来た!——

現在、世界の各地で起こっている巨大な被害をもたらす地震や自然災害は、地球環境の悪化に伴いその頻度と被害の大きさが増幅しているように思われます。特に、平成23年3月11日に起ったM9.0の東日本大震災により、日本は大地の活動期に入ったとされています。これは過去の事例に観るまでもなく、巨大地震の後に内陸の活断層の動きが活発化する為で、歴史上にも類例が多くあります。現に3.11後余震を含め大小の地震が日常化しています

現在これら自然災害に対する科学(者)の挑戦が始まっていますが、この“災害の日常化”に私達は経営者として立ち向かわなければなりません。

(社)東京グラフィックサービス工業会は平成22年度よりCSR(地域貢献)活動の取組を始め、翌23年よりBCP(事業継続)へと取組の深化をおこなってきました。

その過程で上記の東日本大震災が起こり、改めてBCPへの取組の重要性を痛感しました。この東日本大震災は、自然災害に加え原発事故を誘発させた為に複雑な事故対応を迫られています。

今後私達が求められる災害対応は、“見えないリスクの上に都市を築いて来た!”故の複合災害を前提に自然災害に対処をしなければならなくなりました。

東日本大震災を含め、動く大地に近代文明を構築した故の被害の巨大化と大小2000余とも言われている活断層が不気味な存在として、私達の日常を脅かしているように思われます。これは、地震災害に止まらず火山噴火や鳥インフルエンザ・パンデミック等の災害に対しても“そこにある危機”への対応を迫っていると考えます。

私達は、平成23年度CSR研究事業に続き、24年度事業としてBCPと実践的に取組む事となりました。本日ここに一年の事業報告をお届け出来る事になりました。ご一読頂き少しでも多くの会員の皆様のBCPへの取組が進む事と、その一助としてご活用頂く事を願っています。

特に東京グラフィックサービス工業会は、会員企業とともに業界としてBCPへの取組を開始しました。本報告書にあります東グラBCP関連資料(宣言並びに災害対策要綱に基づく運用試案)は、中小印刷事業者のBCPモデルの提示と業界としての災害対応の試案を作成しました。今後会員各位の協力によりBCP事業の深化の一助として活用頂きたく考えています。

また業界としてのBCPへの取組は、東グラの公益社団法人への移行とあわせ、私達が地域に密着した中小事業者である特性に注目し、『地域貢献!』をキーワードに新たな事業領域の開拓推進に繋げたいと考えています。

既にBCPへの取組を開始された企業や未だこれからと言う企業もあるかと思いますが、会員各位の共有する事業基盤はこの「動く大地の上」にあります。そして大地の活動期に入ったと言われている中で、改めて会員各位の災害対応と事業継続への取組強化をお願いし、「防災と減災」をその共有意思として、業界における先進的CSR・BCPへの取組と共に、運動としての普及を図り会員各位並びに支部活動として展開して頂ける事を願っております。

災害は忘れた頃にやってくると言われていますが、改めて私達は多くの歴史上の教訓に学び、事業継続とステークホルダーの生命財産の保全のためにその責を果たそうと思います。奇しくも本年4月より東京都帰宅困難者対策条例が施行されますが、本条例が求める「事業者の責任」と併せ行動を開始したいと思えます。

最後に、この間賛助会員のキヤノンマーケティングジャパン(株)並びにキヤノンシステム&サポート(株)の両社には、CSR・BCP研究事業に多大な協力を頂きました。改めて関係者各位にお礼申し上げます。また、今回研究会活動に参加された会員並びにここに成果発表をされた会員の皆様にも、お忙しい中ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

(H24年度BCP策定事業報告書緒言より)